



発行された記念誌は地域の史料として期待されます

# 母校によせた

幸せを  
実感してほしい



伊藤常次さん  
100歳：道買

記念碑の除幕ができてうれしく思います。明治のころの学校では、帳面の代わりに石盤に石筆で書き、毛筆による習字の勉強をしたものです。体重を計るときは、竿秤で竹かごに乗って計りました。

校舎は茅葺きで、今思うとお粗末な建物でした。また、ひょう害を受けたときの貧しさは、今の子どもたちには想像できないでしょう。

朝夕の雑巾がけなど、家の手伝いもよくやりました。遊びといえば「城とり」「竹馬」「鬼ごっこ」などで、駆けずりまわり、よい運動になりました。

昔を思うと今は立派な校舎で夢のようです。子どもたちにも今の幸せを実感してほしいものです。



昭和16年当時の上野小学校舎



心なごませる花いっぱい藤だな(上野小)

思い出の藤だな



上野小6年  
伊藤孝弘くん

校庭の東には、しっかり根をおろしたふじだながある。ぼくが入学した時にはすでにあった。これは父や祖母の生まれる前からあったと聞く。樹令八十六年にもなるそうでもびっくりした。

先生の話を聞き、父は体操の汗をふき、そして今頃は、おにごっこをして遊んだり、友達と語り合ったりしている。毎年ぼくたちをうらぎらずみごとな花をつけてくれる。まるでぼくたちにも「しっかり自分の責任をはたしてがんばれよ」と言っているように思えばげまされる思いだ。

よい記念になりました



上野小6年  
伊藤亜沙美さん

十一月二日上野小学校創立百周年を祝い呼びかけと百周年讃歌を児童全員で歌いました。式典では、横芝町長さんをはじめとし、おおぜいの方々からお祝いの言葉をいただきました。除幕式では、私と大木力君がオーブナーに乗って入場し金管の音楽と風船

が上がる中、紅白のひもをいっせいにひきました。白いぬのがおちて、「努力」と刻まれた記念碑が、見えてきました。「わあっ」という歓声が聞こえました。私達は、拍手をしながら自分達の場所へともどりました。そのあとは、児童代表の伊藤孝弘君と佐瀬朋子ちゃんがタイムカプセルのふたをとりました。とてもいい記念になりました。